

平成28年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）					整理番号	4 - 2 - 3
事務事業名	側溝清掃事業				担当課係	都市整備課
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり			記入担当者	
	中項目	③生活環境への阻害要因の減少			内線等	
	小項目	2. 豊かな自然を保護し共生するまちづくり			E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				事業区分	経常事業
事業予算費目	款	8	土木費	項	3	道路橋梁費
	目	2	道路橋梁維持費	事業	4	側溝清掃事業
開始年度	-	年度	根拠法令・要綱等 道路法			

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市道等利用者、また周辺住民					
事業の目的 <small>（意図）</small>	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 道路機能の維持のため、また、側溝排水機能を確保し、地域住民の利便性・快適性を図るため、市道側溝のうち半分程度の深さまで土砂汚泥が堆積している箇所について清掃等を行う。					
事業の内容 <small>（内容・手法等）</small>	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 市街化区域における市道側溝について堆積状況を調査し、あわせて道路沿線住民から要望・連絡があった箇所については速やかに調査を行い、半分程度まで堆積している側溝に優先順位をつけ、清掃を業務委託にて順次実施する。					
事業の背景 <small>（経緯等）</small>	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 側溝等の清掃事業については、平成26年度まで市環境衛生センターが市民の依頼等に基づき清掃を実施していたが、平成27年度より市道側溝については道路維持管理者である都市整備課が担当となり、市が調査を行い、清掃業務に関しては業務委託にて実施している。					

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果
	側溝等清掃箇所		側溝等において浚渫及び除草を実施した箇所				
	単位		H27	H28	H29	H30	
箇所	目標		20	20	20	20	H31 20
	実績		19	38			
	達成度		95.0%	190.0%			

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H27	H28	H29	H30	指標の説明
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		27年度決算	28年度決算	28年度予算	29年度予算	
全体コスト（円）	A	直接事業費				
	財源内訳	直接事業費	15,025,618	14,877,340	15,000,000	15,000,000
		国県支出金				
		地方債				
		利用者負担				
	一般財源	15,025,618	14,877,340			
	B	人件費 ①×②				
関連事業費	人件費 ①	1,112,947	3,523,018			
	職員平均人件費 ①	5,564,733	5,871,697			
	従事した割合 ② 人	0.20	0.60			
A + B		16,138,565	18,400,358			
単位コスト	活動指標の説明		側溝等清掃箇所	側溝等清掃箇所	備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト		849,398	484,220	平成27年4月1日現在 人口39,866人 平成28年4月1日現在 人口39,358人	
	市民一人あたりのコスト		405	468		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺状況等や今後の予測) 用水路や排水路については水利組合や改良区、地元協議会、自治会等も清掃を行っているが、昨今では機能をしていない地域も出てきている。また、清掃を実施しても再度同じ場所に土砂や汚泥の堆積が溜まったり、草が生えたり現状があることから、側溝の構造的修繕や改修を図らなければ解決しない箇所も出てきている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 市道側溝の清掃等の要望もあるが、用水路、また、私有地等の生活排水路等の清掃を望む声も多くなってきている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	市民生活に身近な事業であることから要望も多く、また、道路維持等の観点からも必要性は高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	市道側溝については、道路管理者である市が維持管理を実施することが妥当であると考えられる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	側溝調査、清掃の手配は市が行っているが、直接の清掃等業務については業務委託にて実施していることから、どちらかといえば効率的ではある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	調査、清掃委託準備、清掃実施と一定の期間を要することから、優先順位も含め緊急対応が若干難しい事業ではある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	市道側溝等において、排水阻害等が解消されるなど一定の成果が認められる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	清掃等実施まで見積もり、入札等一定の期間を要し、また、委託業者の業務繁忙等都合もあるが、速やかに実施対応できる運用も求められる。また、箇所によっては認定市道以外の要望に対する住民への説明、堆積量不足等などによる未実施についての十分な説明が求められる。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	評価点	市民からの要望、事業の必要性の高さ、市が管理して一定の成果を上げていることを勘案すると、引き続き事業を継続することに至った。
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	2	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2		3 改善・効率化し継続	市民の理解をいただきながら、限られた予算の中で、より効率的効果的に事業を継続していくものである。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	